

## 自己点検・自己評価(平成25年度分)

### 自己点検・自己評価についての取組み

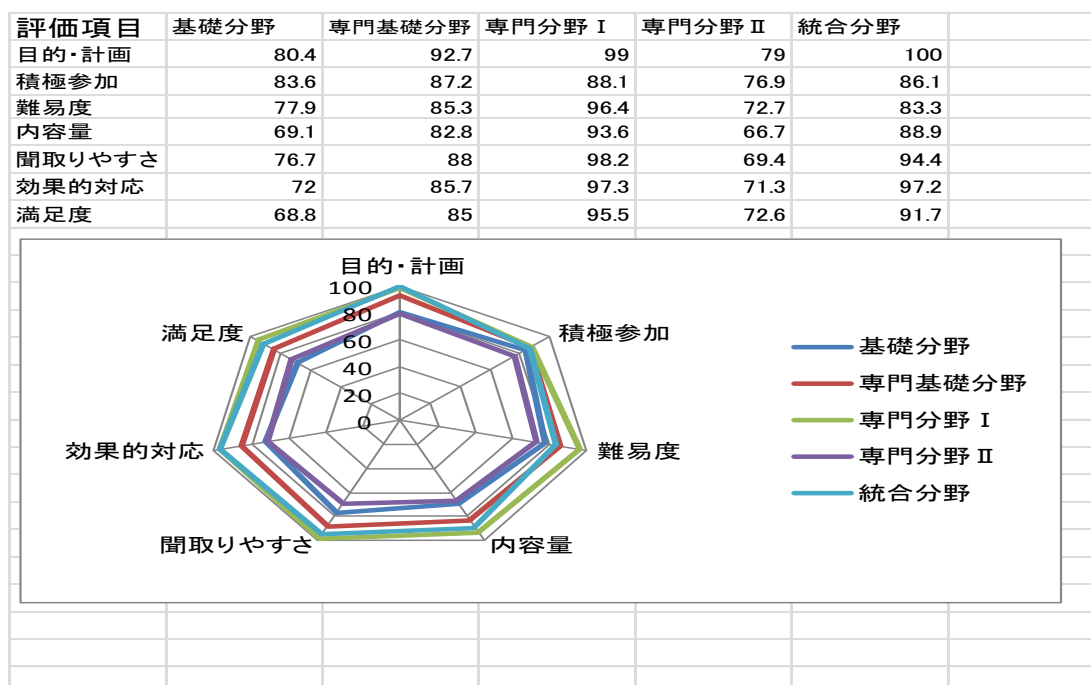
自己点検・自己評価は、看護師養成所において、質の高い人材教育の為に、「教育水準の維持、向上」「創意工夫のある教育の追究」をする為に行うものである。平成23年度に北海道看護教育施設協議会の加入校が同一基準の下、一斉に自己点検・自己評価を行った。二年課程であった本校もこれに参加し、9カテゴリー(Ⅰ教育理念・教育目標～Ⅸ研究)にわたる教職員の意識調査を実施した。その結果は、平成17年度に自己点検・自己評価の勉強を一緒に行ったものと、その後、就職したものと、更に管理職と他職員との間で評価に差が出ていた。教育課程や運営の実態とそれに対する受け止め方の違いが浮き彫りとなり、改めて教職員間の情報共有の在り方に課題があることがわかった。

三年課程に課程変更した初年度である平成24年度は、前年度の評価を踏まえ、「Ⅳ. 教授・学習・評価課程」に焦点を当て、「学生による授業評価」を内部の教員の授業に絞って12回、アンケート調査を行った。回収率・回収方法等を検討した結果、平成25年度は、1・2年生共に学生の負担軽減も考慮し、おおよそ3年間で全科目を網羅できることを目安に、14科目を対象に選び、アンケート調査を実施した。講義、演習、実習で評価項目を変えて行った。以下に、1・2回生のアンケート結果を図示する。

分野毎に、評価基準は4段階(そう思う、どちらかと言えばそう思う、どちらかと言えばそう思わない、そう思わない)とし、「そう思う、どちらかと言えばそう思う」の肯定意見の平均値(%)を出して、記載した。以下の( )内の数値は科目数を示している。

#### 一1回生(2年次)・2回生(1年次)講義分一

(基礎分野:5、専門基礎分野:7、専門分野Ⅰー3、専門分野Ⅱー7、統合分野ー1)



学生評価を基に数値の思わしくなかった部分については、講師に結果を伝え、次年度からの改善策を考え、対応した。また調査対象となった科目の講師(教員)にも自己評価してもらい次年度の改善点等を確認してもらった。

演習科目としては解剖生理学Ⅴ、臨床看護学総論、成人看護学Ⅵを選択して6項目(目的・計画、積極参加、グループへの協力、時間配分・進め方、指導の分かりやすさ、興味関心の深まり)でアンケート調査を行った。その結果、6項目すべてに亘り、85.3～98%の高評価であった。その中で「時間配分・進め方」については85.3%と若干低くでいた。成人看護学Ⅵの「演習内容や配分、進め方」について再検討が必要とわかった。

実習については基礎看護学実習Ⅱ・成人看護学Ⅰを選択して8項目(実習要綱の役立ち、オリエンテーションの役立ち、教員の適切な指導、指導者の適切な指導、教員・指導者の指導の一致度、受け入れの雰囲気、充実感)で評価すると、82.1～100%と概ね高評価であった。その中で若干低く出たのは、1回生の成人看護学Ⅰ実習で、「教員・指導者の適切な指導」、「両者の指導の一致度」が80%台の評価だった為、平成26年度に向けては、更なる指導体制の整備、計画・連携が必要であることがわかった。

「Ⅳ. 教授・学習・評価課程」は、①授業内容と教育課程との一貫性 ②看護学生としての妥当性 ③授業内容間の関連と発展 ④授業の展開過程(授業形態の選択、授業の対象学生の構成と指導方法、指導技術の工夫、教材・教具の活用と開発) ⑤目標達成の評価とフィードバック、評価の計画性と評価結果の活用 ⑥学習への動機づけと支援—が自己点検・自己評価内容である。

これらの視点に基づき、カリキュラム会議を設け、各科目責任者が中心となって基礎分野、専門基礎分野、専門分野のシラバスを学生の反応と講師の意見等を加味し、授業科目の目的・目標、予定した授業内容の到達度、学生の実態に合った方法だったか(時期・授業形態、進度、講師、教材・教具の妥当性)等の評価し、その情報を教員間で共有して、改善の必要性が高いものは、検討調整したものを年度末に、次年度計画として全体に提案し、承認を得たものをよりよい教育実践を目指して運営している。

## 次年度(平成26年度)に向けた取組み

1. 平成26年度は、初めて3学年が揃う年である。授業評価は、3学年それぞれに実施し、アンケート調査は15科目前後として実施する。アンケート調査を実施する科目は科目責任者がそれぞれ要望を出した上で決定した。
2. 実習用の評価項目に関して、表現の見直しと学生配置病棟の明記が必要となり、アンケート用紙の項目等を追加修正した。
3. 自己点検自己評価の内規を作成し、細則に加えて正式に運用する。
4. 今後は、評価公表領域を拡大し、よりよい学習環境の整備等に向けていく。